

様式第 1（第 15 条関係）

会 議 録

会議の名称	第 5 回和泉市久保惣記念美術館運営ビジョン策定委員会
開催日時	令和 7 年 1 月 28 日（火）15 時 00 分から 17 時 00 分まで
開催場所	和泉市役所 3 階 庁議室
出席者 (敬称略、五十音順)	【委員長】 桃山学院大学経営学部教授 学芸員課程主任 井上 敏 【副委員長】 和泉商工会議所 副会頭 高橋 澄代 【委員】 公募市民 大西 起子 一般財団法人和泉市文化振興財団 評議員 久保 尚平 公益財団法人大阪観光局 常務理事 平田 知敬 独立行政法人国立文化財機構 京都国立博物館館長 松本 伸之 【事務局】 生涯学習部次長（文化遺産活用・久保惣記念美術館担当） 兼文化遺産活用課長 森下 徹 久保惣記念美術館 館長代理 田中 ゆかり 副館長兼総括参事 橋詰 文之 総括主幹 奥山 高起 主任 後藤 健一郎 株式会社ダン計画研究所 宮尾、上岡 【オブザーバー】 一般財団法人 和泉市文化振興財団 理事長 藤原 明
会議の議題	パブリックコメント実施結果・和泉市久保惣記念美術館運営ビジョン案・答申案について
会議の要旨	事務局より、パブリックコメント実施結果、和泉市久保惣記念美術館運営ビジョン案、答申案の内容について説明を行い、議事ごとに審議を行った。
会議録の作成方法	☐ 全文記録 ☒ 要点記録
記録内容の確認方法	☒ 会議の議長の確認を得ている ☐ 出席した構成員全員の確認を得ている ☐ その他（ ）
その他の必要事項 (会議の公開・非公開、傍聴人数等)	公開会議、傍聴人数 1 名

1. 開会

2. 議題

(1)パブリックコメント実施結果について

【事務局】運営ビジョン案に対して、ご意見を募集した結果、個人5名から5件のご意見を頂戴し、それに対する市の考え方をまとめたものを報告。

※コメント者NO1～5の順に意見概要と市の考え方を抜粋読み上げ。

- ・ 結果は、この後、市のホームページにおいて公開する。今回頂戴したご意見は、ハード整備に係る部分の要望、運営面でのアイデアや意見という内容になっているため、美術館としての方向性を示した「運営ビジョン・本体」の修正を行う必要はないものと考えている。

【大西委員】

- ・ 和泉市民としてパブリックコメントを意識したことがなかったが、5名の方から意見を頂戴したという結果は他の意見募集に比べて多いのか少ないのか。
- ・ 美術館に対してあまり市民は関心がないと捉えて良いのかどうか。

【井上委員長】

- ・ パブリックコメントは美術館に対しての関心ではなくどちらかというと行政に対して意見を言いたい人が多くないという捉え方で良いのではないか。意見の言いづらさがあるのかもしれない。
- ・ パブリックコメントNO3にも意見があったように南海バスの接続が悪い。南海バスの本数や路線も4月以降減らされていく。久保委員の意見もあったように美術館だけにとどまらず和泉市全体として取り組んでいただくことを考えざるを得ない。その中に美術館・インバウンド政策を含めて考えていただきたい。
- ・ パブリックコメントNO4の意見でカフェを再開して欲しいというのは可能なのか。

【久保委員】

- ・ 道路交通法の改正により、免許証が不要の特定小型モビリティの乗用が可能となった。16歳以上は乗用可能なので高校生等の通学に使えないか、堺市や桃山学院大学等とも話をしている。
- ・ 法改正と共にまちとの連動性、移動の利便性を考えないといけない。桃山学院大学やコストコ、ららぽーと和泉、史跡等はあるが不利な立地、山あり谷ありの環境、地形のビハインドがあるので歩く不便さの解消とモビリティの利用を全体的に考えたほうが良い。
- ・ バスの循環や運行にも運営上の限界がある。シェアリングで場所を提供していただくなどはあるが、何か連携のアイデアがあれば。美術館だけでなく、和泉市全体の移動を考えることも必要ではないか。

【事務局】

- ・ 一概にこの5件が多いとも少ないとも言いきないが、より多くの意見を聴取するため、冊子を

置く・ホームページで知らせるだけでなく市民創作教室や新館・本館のアンケート横にも今回は冊子・回収ボックスを置くなどの工夫を行った結果として5件の意見を頂いた。

- ・ 計画やビジョンという内容面からも市民にとってとっつきにくさはあるのかもしれない。意見の内容はエンドユーザーが喜ばれるような内容の意見・提案が多い。アイデア等の意見は頂いたがビジョンに対しての否定ではなかった。ビジョン掲載の冊子自体のボリュームがあるため、アクセスしリアクションし意見をするのはハードルが高くなるのかもしれない。
- ・ 4月以降の話で確定ではないが、美術館より山手にバスは行かないという話を聞いている。久保委員の話であった特定小型モビリティまではいかないが、昨年7月から電動自転車のシェアサイクルの実証実験を行っている。民間事業者が行っており、市は土地を無償で貸して運用している。市として協力する上でまずは自転車からということで、先々には特定小型モビリティも出てくるかもしれない。当初は自転車3台だったが現在6台設置しており、思っていた以上の利用率はある。今後も商工関係の部署と協議していきたい。
- ・ 現状において、カフェの再開は考えていない。現状は自販機コーナー・映像コーナーという形でやっており、今後のリニューアル時に飲食事業者がどれだけ業として成り立つのか、そのタイミングで検討したい。茶室の耐震補強工事1期がようやく終了し、3月には茶室見学会、4月から一般公開するにあたり協力員の加配の必要性もあるため、現状の人員体制を踏まえて、カフェ運営の再開は考えていない。

(2)和泉市久保惣記念美術館運営ビジョン案について

【事務局】ビジョン案について資料3、資料4、資料5に基づき説明。

○ビジョン案(資料3)

P. 4はじめに

- ・ 当初、「はじめに」については、当初「久保惣の歴史的背景を抜き出してひとつの章」として「はじめに」という章立てを考えていたが、「本文中に掲載してはどうか」、とのご意見を受け、P. 4に①和泉市の歴史と美術館の位置付け、P. 5に②地元企業「久保惣」という形で歴史的背景を踏まえ、本文中に掲載をした。
- ・ 運営ビジョン策定の経過等の説明については、教育長あいさつとして、P. 1に掲載を行う。

P. 7

- ・ (4)文化・芸術の景観形成拠点、を追加した。
- ・ 当館の周辺地区につきましては、令和5年に定められた和泉市景観条例により、「文化・芸術の景観形成拠点」として位置付けられていたことから、その内容を追記した。

P. 10

- ・ (2)として、井上委員長の意見を踏まえて、当館が定めている「美術品収集方針」を追記した。

P. 14～21美術館の現状と課題

- ・ 井上委員長の意見を踏まえ、「ソフト面・ハード面」について整理しなおしたうえで、分かりやすさを重視し、修正した。
- ・ 前回までは文字だけで表現していたが、分かりにくさや伝わりにくさがあったので、第1回での委員会資料でも示した、折れ線グラフを挿入することで、視覚的に分かりやすくした。なお、P20、21には、ハード面の現状を分かりやすく伝えるために、工事・修繕料のグラフを追加。

P. 24～26

- ・ 当館の評価と今後の方向性について、もともとSWOT分析の表を入れていたが、見にくく分かりにくかったことから、それを分解し見やすく整理しなおした。

P. 29

- ・ 3運営の基本方針（コンセプト）に、第2回委員会資料でも使用した、図を挿入することで、視覚的に分かりやすくした。
- ・ 次に事務局として修正したい点が2点あるので、その箇所について説明を行う。

P. 30

- ・ 記載漏れに伴う追記である。
- ・ こちらには、第3章の3の(2)として、今後・これからの取り組みとして「調査・研究の充実」の項目を掲載している。しかしながら、11ページの(3)これまでの取り組みの章に、「展示事業」のみしか掲載できておらず、「調査・研究事業」を実施しているにも関わらず、その記載が漏れていたことから、そのことを追記した。

P. 34

- ・ 文言の変更について、(6)地域活性化：地域貢献、交流・来訪促進の部分が「交流促進、観光振興」という言葉になっていたが「観光」という言葉から「来訪促進」という言葉に変更した。
- ・ 変更の意図は庁内ワーキンググループ「広報・インバウンド部会」を開催したところ、商工観光部局からの意見として、市の取組の現状としては、令和6年度からこれまでの「観光推進事業」から「来訪促進事業」と名称を変更しており、観光資源の発信だけでなく、来訪者を増やすことを目的に事業展開を行っているとのことだった。
- ・ 担当部局から、市として「来訪促進」という言葉に変更する流れであるとの方向性が示されたことから、本運営ビジョンにおいても齟齬が生じないように、修正を行うものである。

資料4 資料編案

- ・ 資料4には、冒頭40周年記念誌でも掲載しているが、当館の施設概要について6ページ分掲載している。
- ・ 次に、館内アンケート調査結果について掲載している。こちらは第1回委員会で配布した資料と同様になっている。
- ・ 次に、他館アンケート調査結果について掲載している。
- ・ 他館へのアンケート調査は、運営ビジョンの策定に伴い、類似美術館の運営・取組状況を把握することで、久保惣記念美術館の取組方針(コンセプト)や今後の取組内容に活かしていくことを目的に実施した。
- ・ 調査対象は、文部科学省令和3年度社会教育調査の美術館数をベースに、文化庁のデータベース等から公立(国、国独立行政法人を除く)、私立美術館を抽出。公立美術館241館、私立美術館146館、計387館にアンケート票を郵送し、令和6年9月下旬～11月中旬まで実施し、web回答86件、紙回答58件、計144件の回答があった。回答率は37%となっている。
- ・ 調査項目については、第4回委員会でご提示した通りで1p下段の項目である。
- ・ 2p以降の調査結果については、重点的取組に基づく抜粋でしたが今回は全設問の結果を記載している。

前回のアンケートに対しての質問回答

- ・ 松本委員からのご質問で、回答の公立・私立の割合はどの位であるのかに対して、3 p、問4 設置者、公立（選択肢1～7）は77.1%、私立（選択肢8～12）21.6%の割合である。
- ・ 大西委員からのご質問、立地等の条件が似ている美術館の抽出と、単独の立地で似たようなロケーションにある所がどういう取組をしているのかに対しての回答は次の通り。
- ・ アンケートでは立地条件は聞いていないため、事前に調査した駅からの最寄り距離を基に抽出。立地条件が当館と同様の最寄り駅から1 km 以上～2 km 未満の回答は33件、そのうち公立館は78.7%。
- ・ 来館者数増加に向けた取組は「やっている」が97.0%で、全体回答よりもやや高い割合。
- ・ 成果のあった取組は、「特別展（企画展）の開催」「講座・ワークショップ」「学校への働きかけ」が7割以上を占める回答で、概ね全体回答の傾向と同様でしたが、「学校への働きかけ」が全体回答よりも高い傾向にある。
- ・ 「料金体系の工夫」について、成果があるとした回答は4割弱だった。
- ・ 「来館者のアクセス向上・改善」について、成果があるとした回答は2割未満で、同様のロケーションの館が取組に苦勞している点が伺われる。
- ・ 成果があった具体的取組（自由記述）については以下の通り。

○広報について

- ・ 夏期の企画展について、ファミリー向けの内容で実施し、市内各小学校、幼稚園、保育所等に開催案内を送付している。
- ・ 特別展はテレビコマーシャルなどからSNS公報に移行し、若い世代に向けアピールしているが高齢者が多い地域のため、まだ新聞や紙ものの広報も必要で両立している
- ・ 玄関口となる駅でのチラシ、招待券の配布（ご当地キャラクター着ぐるみ借用）」等。

○料金体系について

- ・ 昨年度より高校生個人の観覧料も無料にしたが、元々高校生個人での観覧は少数であったため大きな変化は見られない。（学校団体での鑑賞は無料）

○アクセス向上について

- ・ 観光客用レンタサイクル置場を設置。

○特徴的な取組

- ・ 隣接する名勝との連携（連携展示、割引、声かけ）などを実施している。

○連携については

- ・ 学校と連携し、教育プログラムを実施。プログラムにおいて制作した作品を展示室で展示している（来館者の増につながっている）。

○その他

- ・ 午後のカフェ・レストラン等と展覧会コラボメニューを作成。

5 巻末資料案

- ・ 運営ビジョン策定に係る経過等をまとめて掲載している章になる。諮問書、次に答申書、委員会名簿の構成となっている。
- ・ 取組経過として、当委員会の開催のほか、ワーキンググループ開催や、パブリックコメントの実施を掲載している。
- ・ 最後に用語解説を付けて、巻末資料としている。

○ビジョン案全般について

【久保委員】

- ・ BCP で、災害時の際に他美術館との連携協定を先日市がされたと思うので、それについて載せたほうが良いのでは。せっかくの良いことなので掲載したほうが良い。
- ・ 交通連携について、車・モビリティの提供はできるが、運転手の手配・確保が難しい。提供が出来ても提供先にとって維持管理が大変な事もある。あまり手を出しすぎるとタクシー業界との問題になることもある。既存の事業者は既得権益なので、特定小型モビリティなど新しい分野、国が政策的に進めている方が容易であるので協定を結んでいくことも考えられる。一部への支援、広告・宣伝は特に難しく、方法として寄付という形になる。

【大西委員】

- ・ 用語解説、本文の注やページ下への記載が必要なのかどうか。後方にまとめるのであればどこに書いてあるのか記載しておいた方が親切ではないかと思う。
- ・ アンケート結果について駅からの距離について抽出して頂いたが、周りに他の美術館がない単独立地のところがどういう工夫をしているのかを知りたかった。例えば京都なら徒歩圏に他の美術館がある場合があるので、単独立地の美術館について該当はなかったか。

【井上委員長】

- ・ 横須賀美術館は駅から遠いという点では共通している。横須賀美術館だけでなく、広域的に危機管理の協定を結んでおく観点でも色んな美術館と、特に遠い所との連携を広げていったほうが良い。
- ・ 注は読み手に分かりやすいように入れるのが良い。量が少なければ本文中やページの下に入れる方が参照しやすいが、量が多く頻度が高いので別で置いておいたほうが良いと考える。

【松本委員】

- ・ 運営ビジョン案 14p、新たに追加した表のグラフの上部の解説が、テニヲハを含めて分かりにくく資料の信用力に関わるのでもう少し分かりやすくしたほうが良い。その下の枠についても同様。
- ・ 運営ビジョンはブラッシュアップして、充実した内容となっている。30p「調査・研究の充実」③の出版物の発行ところ単に出版物だけでなく、その出版物をデジタルの世界に載せる。更には国際化の観点から英語圏への発信を盛り込んでどうか。
- ・ 33p、「多様な主体との連携協力、パートナーシップ」について、交通・立地条件の不利さがあるので、交通機関との連携などもう少し書いても良いのではないか。

【事務局】

- ・ 横須賀美術館と災害時の防災協定を締結した。1対1の協定は全国でも大変珍しく、全国基地協議会としての繋がりがあり、先方の市長が当館に視察に来ていただいたことをきっかけに、当館学芸員からの働きかけにより、協定を結ぶに至った。令和8、9年度には相互に展覧会の連携も行う。文化防災デーに合わせてオンラインの防災協定の締結を実施した。連携かつ防災という観点からも重要であり、追記修正を行いたい。

- ・ アンケート調査はより具体的な抽出は行っていない。自由回答はここには全てを掲載しきれない量があったが、詳細な記述はあったものの、単独立地であるか否かに関わらず他館も苦戦をしている状況がうかがえた。立地条件が類似しているものを抽出したとしてもインパクトのある取組事例はなかった。
- ・ 30p についてのご提案、研究機関でもある美術館なので、英語文化圏の方にも知っていただきたい。時間や人員の課題もあるが、目標でもあるので盛り込んでいきたい。
- ・ 交通機関との連携は、現状でも中吊り広告等をしているが、南海バス、リムジンバス、泉北高速鉄道、南海電鉄に加え、カローラ南海等支援をしていただけたところがあれば。後押しの意見があれば⑥で追記したい。

○今後の連携について

【高橋副委員長】

- ・ 商工会議所として議員総会での研修を市民ホールでしたいと会議で提案した。本来は3月に行うが4月から展示が新しくなるとのことなので、新しい展示の時に総会での研修をしてそこで議員に見ていただく。美術館のプロモーションビデオ流す予定。今後、会議所としてもできることから関わって広げていきたいと思う。

(3) 答申案について

【事務局】資料5 巻末資料答申案について、抜粋読み上げ。

- ・ スムーズにいくと2月末に開催予定の教育委員会において確定予定。

○答申案について意見

【平田委員】

- ・ 2 (1) の3つ目のチョボ、「…リニューアルを推進されたい」が書いてあるので、(3) にまとめた方がすっきりするのではないかな。
- ・ (3) リニューアルのところの文章について、二つ目のチョボが根元なので、「浮世絵版画を主力にした展覧会の開催と、それらに対応する展示室のリニューアル」を盛り込んだ基本構想をつくって計画・設計・リニューアルを推進、の流れの方が良いのではないかな。
- ・ 松本委員の指摘について、本編ビジョンの 42p (6) のロードマップにも関わってくる。答申案の(6)の先行的取組に係る優先順位、について表現も変えるのであれば、合わせて検討して欲しい。
- ・ 本編ビジョンの 42p (6) ロードマップのところ、リニューアルについてはこのままの表現で良いのかどうか。ビジョンに具体的な時期が書けないのであれば、答申の(6)を別立てとした方が良いのではないかな。

【松本委員】

- ・ 見出し2の先行的取組の(6)の先行的取組に係る優先順位について、「先行的取組」と「優先順位」という言葉の表現の問題であるが混乱を招かないか。「重点的取組」と変えてはどうか。
- ・ 優先的取組に(3) リニューアルを入れなくても良いのかどうかを確認したい。ビジョンには入れることができないのであれば、答申では特出しして、見出し3とした方が良いのでは。

【大西委員】

- ・ 2の(2)「・・・使いこなす」、ここだけ用言止めとなっているので違和感がある。

【井上委員長】

- ・ 書式の問題ではあるが、(5)、(6)の間の行間が他より狭いので統一して欲しい。
- ・ 1・2の行の下に1行空白を設けたほうが読みやすい。
- ・ 各取組の見出しについて、下でもカッコを使うので強調するのであれば見出しは二重カッコが良いのでは。
- ・ (3)のリニューアルについては、是非、市に働きかけて実施していきたい取組みである。実施できる時期にしたほうが良いし、早い時期に実施を要望していきたい。
- ・ 本編ビジョンの42p(6)ロードマップのところは、予算が決定していないので書けないのではないか。
- ・ ビジョンではこう書いたけど、ということであれば、大見出し3にするのはどうか。2の中の(6)ではなく3にした上で2の(3)の部分を強調してはどうか。
- ・ 今後の修正については、本日の意見を踏まえて修正を行う。修正内容については委員長一任で承認をいただけるか。(委員より「異議なし」として承認。)

【事務局】

- ・ (3)の文章がバラついているため、平田委員の指摘を踏まえて修正したい。
- ・ 先行的取組の表現について、同じような言葉が並んでいるのは理解している。スタートの段階では先行的取組であったが、現状はほとんどの取組を網羅している状況にある。「先行的取組」と言う言葉を修正しないと優先順位と言う言葉とそぐわないため、「先行的取組」を「重点的取組」と変更したい。
- ・ リニューアルの予算要求はしているが、現時点では正式な決定が行われておらず確定していない。本編ビジョンの42p(6)ロードマップのところは現状の表現以外書き方が難しい。
- ・ (6)の整理の仕方としては井上委員長の案の方が分かりやすいため、平田委員の意見を踏まえて修正の方向で考えたい。

3. その他

○飲食スペースの確保について

【松本委員】

- ・ リニューアルについて、先程事務局よりカフェについて現状は考えていないとの話だったが、施設の魅力と久保惣の位置づけからして、むしろカフェ・レストランをメインにしないといけないのでは。極端に言えば良いシェフを連れて来てでも、インバウンドを含め本気でやるとするならば大きな重点項目である。食と美ある意味一体のものである。その点について知恵を絞り重点にさせていただくことを強く求めたい。

【井上委員長】

- ・ 桃山学院大学周辺、和泉中央駅周辺の店も撤退が続いており、大学内のファーストフードも撤

退してなくなったこともある。その状況を鑑みて、どこまで本気でやるかということを考えなくてはならない。しかし食と美の相乗効果も進めていきたい。

- ・ 食と美の部分を現実とどう調整しながら実現していくか、これからの問題提議が出来たのではないかな。

【久保委員】

- ・ カフェ・レストランの話に関連して西館があるが、三井住友銀行迎賓館など、厨房を持ってなくて必要な時だけ持って来てもらう、という方法をオプションとしている。一般的に飲食として使うと運営が成り立たない。商工会議所から「食事は使えないのか」と要望があった時に「これは対応できますよ」とオプションがないと広がらないだろう。一般的な企業は自社で飲食を運営はしていない。単発で料理屋に依頼ができるように西館にはキッチンがついている。
- ・ 使われる方や場所のTPOに合わせてどうしていくか、と考える方が良いのではないかな。
- ・ 飲食は外部に委託するような一般的な広げ方よりは、使い方を限定した形だと思う。
- ・ 入口をカフェのようにオープンに広げすぎてしまうと今の設備では難しい。そこをリニューアルの中でどう考えるか。その中で西館の利用は一つである。

【高橋副委員長】

- ・ 西棟については、商工会議所として使わせてほしいと考えており、和泉市にはお招きできる迎賓館がないので他市に行ってしまうのがもったいない。テクノステージ和泉の企業の方々からも「和泉市にそんな場所があるなら是非呼びたい」との声がある。シェフを呼び、お茶室へ招いてご案内するイメージで、最終的に和泉市の迎賓館にと夢見たいと思っている。
- ・ リニューアルの軽食機能も実現して欲しいのでその方向で走っていただきたい。

【大西委員】

- ・ 市民委員として好きなように意見を言わせていただいた。それを毎回膨大な資料としてまとめていただきこの場を借りてお礼を申し上げたい。

【事務局】

- ・ カフェについては美・食と、滞在時間、満足度向上、お客様の単価の上昇も望むところである。しかし外部事業者が安定的に運営できる状況があるのかを懸念している。
- ・ リニューアルをして美術館にどれだけ集客ができるかという点と、ここでの商いがどれだけ成立するか、どれだけお客様を増やす努力ができるか、プロモーションしながら考えていきたい。
- ・ 西棟の利用部分とレストラン機能は分けて考えている。西棟は（仮称）企業家プレミアムクラブの利活用をメインに考えている。リニューアルするときに寄贈敷地や駐車場等を使って、多目的室、飲食スペースとして新築することを考えている。選択肢としては軽飲食でどれくらいの席数が確保できるのか、席からのロケーションなどの視覚の確保も考えなくてはと思っている。リニューアルでレストランは増築部分で考えている。

○事務局からの御礼（事務局森下）

- ・ 昨年7月から長期間にわたり、運営ビジョン策定にご尽力いただき、本日無事に運営ビジョン

案を取りまとめることができた。

- ・ 5回の委員会を通じて多くのご意見やご提案をいただき、示唆に富む議論が展開され、非常に有意義な成果を得ることができたと思っている。
- ・ 今回策定される「運営ビジョン」は、これからの美術館が日々の歩みを進めるための道標となるもので、本日はゴールではあるが新しいスタートでもある。
- ・ ビジョンは「作って終わり」ではなく、「携えながら歩く」ものであることを肝に銘じ、課題は多くあるが、10年後の目指すべき姿に向かって着実にその歩みを進めてまいりたい。美術館だけでは力不足なところもあるため、委員の皆様方とのご縁も引き続き紡いでまいりたい。連携・協力はもちろん、叱咤激励も含めてご意見をいただきたい。
- ・ 結びに、長期間にわたる尽力に重ねて御礼を申し上げるとともに、皆さまのご健勝とご活躍をお祈り申し上げて、御礼の言葉とさせていただきます。

○委員長より結びの挨拶（井上委員長）

- ・ 半年間にわたり、委員の皆さまと運営ビジョン策定を通して自身も大変に勉強になった。
- ・ 大学で博物館学を教えている身ではあるが、博物館を経営するのは通り一遍の話では全くできない。もちろん一般企業を経営する事も大変だが、更に利益を生むことを目的としない博物館について学生にどう教えていくのか、23年間考えながらやって来た。
- ・ ミュージアムという様々な視点を委員の皆さまから教えていただいた半年間だった。
- ・ 力不足ではあったが皆様のお力のおかげで無事に努めここまで到達することが出来た。本当に色々と勉強をさせていただいたことを、すべての皆様に感謝を申し上げたい。
- ・ 最後に委員会の会議録の調整については、委員長一任で承認をいただけるか。
（委員より「異議なし」として承認。）

< 終了 >